

総務文教委員会記録

令和7年9月22日（月）
14時29分～14時54分
第1委員会室

【委員】 芦谷委員長、沖田副委員長、村武委員、岡本委員、永見委員、西田委員
【議長・委員外議員】
【事務局】 森井書記

【議題】

- 1 議会による事務事業評価について（委員間で協議）
- 2 第5回はまだ市民一日議会での発言内容の今後の取扱いについて（委員間で協議）
- 3 その他

【会議録】

[14 時 29 分 開議]

○芦谷委員長

ただいまから総務文教委員会を開会する。出席委員は 6 名で定足数に達している。それでは、レジュメに沿って進める。

1 議会による事務事業評価について（委員間で協議）

○芦谷委員長

先般開催された予算決算委員会の決算審査を踏まえ、総務文教委員会が選出した 3 事業について、委員会として議会評価意見書を作成することとされているため、これを協議するものである。案内されているとおり、本日委員会として決定した議会評価意見書については、9 月 26 日の全員協議会で協議が行われ、議会としての議会評価意見書を完成させることとなっている。

まず、資料 1-(1)を参照されたい。①②③の 3 種類、3 事業分ある。これは「議員事務事業評価シート（全議員分）」であり、先般開催された予算決算委員会での決算審査を踏まえ、全議員が作成し、提出のあった評価シートである。

続いて、資料 1-(2)を参照されたい。これは「議会評価意見書の素案」として、これまで総務文教委員会において実施した所管事務調査などを踏まえ委員間で協議し、委員 6 人の評価を基に、当委員会としていったん調整したものである。本日は、これまで委員会で調整してきたこの議会評価意見書の素案をベースとして、全議員の評価シートを踏まえ、議会評価意見書に盛り込むべき内容や加筆調整することについて協議したい。

各委員は、事前に全議員の議員評価シートを確認していると思うため、順次、意見や加筆調整すべきと考える内容について発言をお願いする。なお、加筆調整する内容については、どの文言をどのように修正したいのか具体的に発言してもらい、整理したい。

まず、1 つ目の事業「結婚新生活支援事業」についてお願いする。委員会としてのこれまでの評価案は、事業内容は「現行どおり」、予算規模は「現状維持」で、評価理由は記載のとおりである。これについて、どの委員からでも良いので、発言をお願いする。

○沖田副委員長

ほかの議員の意見を見ると、予算規模はほとんどが「現状維持」で一致している。ただ、1 点気になるのは、川上議員と田畑議員が、この支援事業は国の動向で増減するので、市独自の事業として予算編成の検討をすべきであると要改善点に挙げている点である。それも確かに一理あると感じる。

当委員会の素案では、国の動向についてはあまり触れていないが、その点を検討してはどうか。

○岡本委員

要検討とのことだが、その場合、どのような調整になるか。

○沖田副委員長

当委員会の素案には、国の動向を見て、例えば国が補助額を増額したときに浜田市としてどうするのかといった視点が盛り込まれていない。川上議員と田畑議員は、そういった点も考慮すべきだと指摘したいのだと思う。それも一理あるので、その辺りの文言を入れ込む検討をした方が良いのではないかという提案である。

○芦谷委員長

その場合、どの部分にどのような文言を入れれば良いか。

○沖田副委員長

事業内容を「要改善」とするか、あるいは「提案内容」の部分に川上議員、田畑議員の意向を盛り込むのが一番良いのではないかと考える。

○芦谷委員長

「現行どおり」としておいて、それに附帯するような意見として両議員の内容を入れてはどうか。

○西田委員

事業内容は「現行どおり」、予算規模は「現状維持」として、最後の提案内容の部分に、「国の動向も踏まえつつ、市独自の施策としての将来的な検討も求めたい」といった趣旨の意見を附帯的に盛り込む形で良いのではないか。

○沖田副委員長

川上議員の評価シートを参考にするのが良いと思う。「国の方針で増減する可能性があり、国の動きを確認しながら進めるしかないが、市独自の事業であり工夫を重ねて当初の目的である若者定住促進及び少子化対策が進むよう、事業への変化を持たせることが事業の継続と進展には必要と考え改善を求める」という部分を引用し、文言を整理してはどうか。

○芦谷委員長

それでは、沖田副委員長、西田委員が言ったとおり、川上議員の意見を参考に、少し文言を整理しながら加えるということで良いか。

（ 「はい」という声あり ）

では次に移る。2つ目の事業「高校生通学定期券助成事業」についてお願いします。

当委員会としてのこれまでの評価案は、事業内容は「要改善」、予算規模は「拡充」で、評価理由は記載のとおりとしている。

なお、予算規模を「拡充」とする場合には、財源措置の考えについても記入するよう求められているので、財源についても意見をお願いします。これについて、発言があればお願いします。

○沖田副委員長

当委員会の素案には財源について触れていない。財源については、村木議員の提案内容を引用するのが一番良いと考える。内容を読み上げると、「財源は子育て、定住、

交通対策といった市の施策の根幹なので、市単費を考えている」というものである。市の根幹に関わる重要な施策だから一般財源でということだと思う。

また、村武委員も同じようなニュアンスで述べているが、「広域連携を視野に制度の中長期的な見直しが求められる」というのも、まさにそのとおりである。江津市、益田市への通学も増えている現状を踏まえ、そういった意味合いを持たせた内容を、財源の考えと併せて盛り込むのが一番良いのではないか。

賛否が分かれるところだが、他の議員も「要改善」「拡充」の意見が多いと思うので、素案を基本としつつ、財源について加えるのが良いと考える。

○芦谷委員長

ほかに意見はないか。

今出た意見のとおり、当委員会が素案としてまとめた「要改善」「拡充」をベースにしながら、村木議員、村武委員の意見も加えて補足することによって良いか。

(「はい」という声あり)

それでは、続いて3つ目の事業「イベント情報発信事業」について願います。

当委員会としてのこれまでの評価案は、事業内容は「現行どおり」、予算規模は「廃止」で、評価理由は記載のとおりである。これについて、委員から発言をお願いする。

○岡本委員

この事業は既に終了したものである。執行部からもこの事業は終わったと説明があった。終わったのであれば、これについて今後何か意見を出す必要はないと決まったはずである。それにもかかわらず、評価案が、事業内容は「現行どおり」、予算規模は「廃止」となっている理由が理解できない。「現行どおり」とは何を指すのか。

○沖田副委員長

個人的にも「現行どおり」か「廃止」か非常に悩んだ。事業予算が現在 0 円なので予算規模は「現状維持」なのか、あるいは、決算が終わり次年度は廃止になっているので「廃止」という方針を維持するという意味での「現行どおり」なのか、判断に迷った。

○岡本委員

当委員会では、この事業は終わったのだから「廃止」で良いと話をしたはずなのに、他の議員から異なる意見が出てきた場合に、それを採用するのかということを聞いている。「現行どおり」とは何をもって現行どおりなのか。執行部も予算は廃止だと言っている。割合としては事業内容を「廃止」としている議員は少ないかもしれないが、「廃止」で理解している議員もいる。「現行どおり」とするなら、当委員会として整理すべきだと考える。

○沖田副委員長

委員会として「廃止」と判断しているのであれば、それで良いのではないか。予算をもう一度付けて、この事業をやり直せと言っている議員はいない。

○岡本委員

他の議員の意見を入れなくても良いのではないかと。

○沖田副委員長

しかし、当委員会の意見に財源のことが抜けていたので加えなければならないし、良い意見は加えれば良い。別に無理に意見を加えるものではなく、必要があれば加えるということで議論をしている。

○岡本委員

そうであれば、皆が同調できるならば、事業内容は「現行どおり」ではなく、「廃止」とするべきだろう。

○芦谷委員長

私の思いは、イベント情報発信そのものに対して「現行どおり」という思いである。この事業は確かに廃止であるが、委員会としては、予算に対して現行どおりか廃止か、そのことがどうかという議論があったと思う。

○岡本委員

委員長がそういう思いで、皆もそうだったら、「現行どおり」という理由付けをきちんとしておいた方が良い。これまで行ってきたことをこれまでどおり行ってくれということであれば「現行どおり」となる。

○沖田副委員長

総務文教委員会の素案を読み上げる。事業内容は「現行どおり」、予算規模は「廃止」である。評価理由の事業内容については、「本事業はイベント情報の発信力と市民・観光客への認知度向上を目的として令和 6 年度に新たなシステムを構築して運用を開始したものであり、初年度には 49 件の投稿実績があるなど一定の成果が認められる。市内のイベントを一元的に閲覧できる利便性が高く、これまで不足していた情報発信機能の強化にもつながっている。主催者自身が情報投稿できる仕組みや情報量の増加とともに、市民参加型の情報発信としても有効である。一方で、運用の評価や改善に当たっては、アクセス件数や投稿者・主催者からの評価、実際のイベント運営の効果などを点検し、今後の改善に生かしていく必要がある。以上の点を踏まえ、現時点では事業の目的はおおむね達成されており、今後の検証・改善を前提に、事業内容は現行どおりとすることが適当と判断する」というものである。

予算規模については、「本事業は令和 6 年度の単年度事業としてシステム構築を行い、一定の成果が得られており、当初の目的が達成されたと判断できる。システムの構築自体はおおむね妥当であったが、事業の性質上、今後の運用は既存の体制や仕組みの中で対応可能であると考えられるため、新たな予算措置を継続して講じる必要は低い。媒体の拡大や改善に当たって必要に応じて、既存事業や他の施策との連携を図ることが望ましく、本事業としての予算規模は縮小・廃止とすることが適当である」と結論付けている。

○岡本委員

そういう認識であれば、それで良い。

○沖田副委員長

この素案は、随分前に委員会で作成したものだが、この度、他の議員の意見が出たのでこれを議題に挙げている。私もこの当初案で良いと考える。

○芦谷委員長

他の委員から提案について何かあるか。

(「なし」という声あり)

それでは総務文教委員会の当初の案のとおりということで良いか。

(「はい」という声あり)

ただいまの内容について、正副委員長で調整をし、各委員に確認してもらうこととしたい。

以上をもって、総務文教委員会としての議会評価意見書として決定し、全員協議会の資料として提出するので、よろしくお願いする。

2 第5回はまだ市民一日議会での発言内容の今後の取扱いについて

○芦谷委員長

総務文教委員会で協議対応することとされた案件のうち4件について、9月9日に執行部担当課と協議・意見交換を実施し、発言者の考えを整理・共有するとともに、必要な対応を求めたことにより、いったんの対応が終わったものと整理している。これについては、それで良いか。

(「はい」という声あり)

続いてもう1件、「浜田市のサードプレイス」に関しては、9月16日に産業建設委員会が主催した発言者との意見交換会に、総務文教委員会からも3名が参加して意見交換をした。意見交換の概要は、資料2-(1)のとおりである。

併せて、資料2-(2)を参照されたい。資料にあるとおり、サードプレイスの件については、総務文教委員会としては、「定住関係人口推進課など関係部署と協議していく」としている。このため、本日において、この件に関して、総務文教委員会として今後、関係部署との意見交換を実施する必要があるかどうかを協議したい。

例えば、先日の意見交換の内容を踏まえ、発言者は十分先に向けて進めているので、現時点ではこれ以上意見交換などの必要はなく、総務文教委員会としての対応はいったん終了という判断も考えられる。委員の意見をお願いします。

○沖田副委員長

意見交換会で改めて発言者の大学生と意見交換しての対応だが、現在、彼らが独自で動いていることを確認した。その中において、どちらかというと言産業建設委員会の要素の方が大きいと感じている。

ただ、今後、大学生が運営していくというのがこの事業のポイントであるが、例えば代替わりしたときに、これはまちの居場所ではなく、大学の外部的な教育の場というような考え方になるかもしれない。そうなった場合に当委員会の所管として考えるべき話だと思う。当面、改選も近いので、当委員会として何か対応することは、今の段階では少し難しいのではないかと考える。今後の動向に応じて、必要があれば対応

するということで良いと思う。

○西田委員

沖田副委員長が言ったとおり、今は学生が主体的に動いているので、我々は細かく関わらず、ある程度学生の動きを見守り、何かあったときにバックアップするという姿勢で良いのではないかと。

○芦谷委員長

資料 2-(1)を参照されたい。芦谷委員長私案としてまとめてみた。総務文教委員会としては、このように整理したとして良いと思うがどうか。

○沖田副委員長

委員会内の整理ということで。

○芦谷委員長

そういうことで良いか。

(「はい」という声あり)

それでは、定住関係人口推進課との意見交換は行わず、以上をもって、はまだ市民一日議会での発言内容の今後の対応についての協議は全て終了したいと思うが、良いか。

(「はい」という声あり)

3 その他

○芦谷委員長

その他何かあるか。

(「なし」という声あり)

それでは、以上をもって総務文教委員会を終了する。

[14 時 54 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第 65 条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員会委員長 芦 谷 英 夫